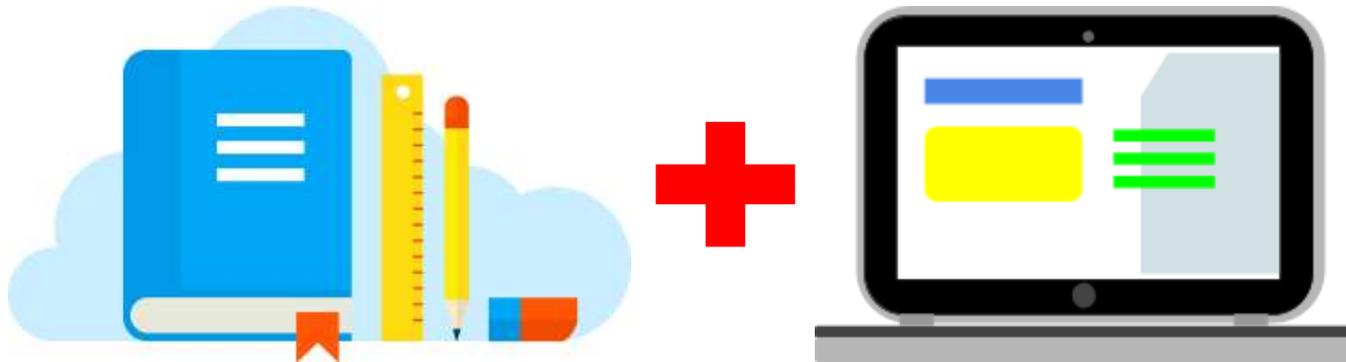


令和の日本型学校教育の推進

～ICT利活用から教育の質の向上へ～



令和6年2月16日（金）10：00－
南アルプス市役所本庁本館3階大会議室

南アルプス市教育委員会 学校教育課

学習指導要領 前文 (H29、30年改訂)



これからの学校には…… (略)
一人一人の児童 (生徒) が、
自分のよさや可能性を認識するとともに、
あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、
多様な人々と協働しながら
様々な社会的変化を乗り越え、
豊かな人生を切り拓き、
持続可能な社会の創り手となることができるよ
うにすることが求められる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

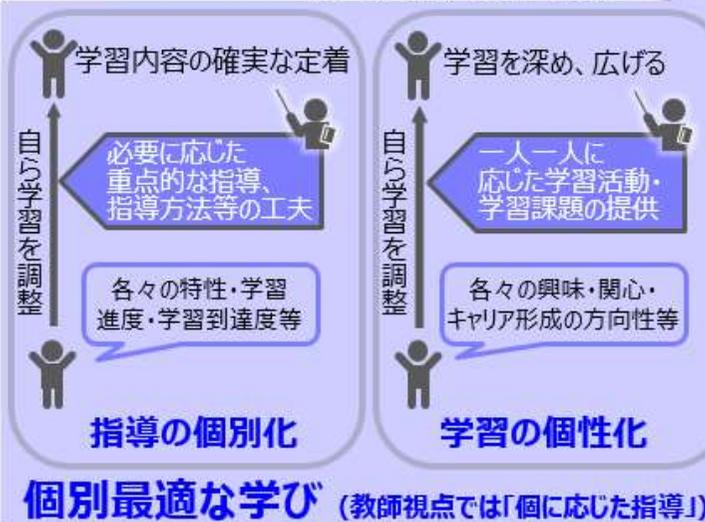
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

資質・能力の育成



異なる考え方が組み合わせりよりよい学びを生み出す



協働的な学び

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視の考え方を生かす

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含

履修主義
の考え方を生かす

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

- ◆ 「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、**ICTは必要不可欠**
- ◆ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上**につなげていくことが必要
- ◆ ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、**PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う**ことが重要であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要
- ◆ ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、**Society5.0時代にふさわしい学校の実現**が必要

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 養成・研修全体を通じ、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境の実現
- 養成段階において、学生の1人1台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT活用指導力の養成やデータリテラシーの向上に向けた教育の充実
- ICTを効果的に活用した指導ノウハウの迅速な収集・分析、新時代に対応した教員養成モデルの構築等、教員養成大学・学部、教職大学院のリーダーシップによるSociety5.0時代の教員養成の実現
- 国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の充実等による現職教師のICT活用指導力の向上、授業改善に取り組む教師のネットワーク化

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により整備される1人1台の端末は、クラウドの活用を前提としたものであるため、高速大容量ネットワークを整備し、教育情報セキュリティポリシー等でクラウドの活用を禁止せず、必要なセキュリティ対策を講じた上で活用を促進
- 義務教育段階のみならず、多様な実態を踏まえ、高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、端末の更新に向けて丁寧に検討
- 各学校段階において端末の家庭への持ち帰りを可能とする
- デジタル教科書・教材等の普及促進や、教育データを蓄積・分析・利活用できる環境整備、ICT人材の確保、ICTによる校務効率化

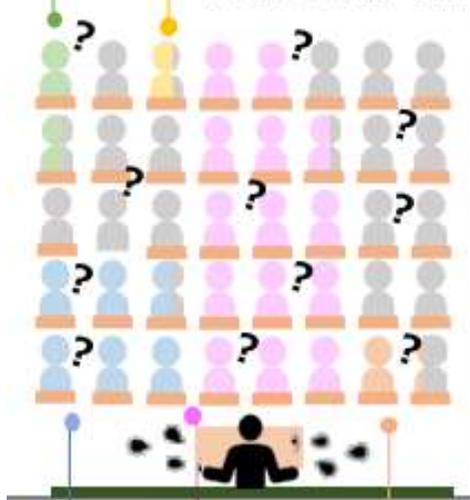
令和3年1月26日 中央教育審議会答申 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

子供たちが多様化する中で紙ベースの一斉授業は限界

発達障害の可能性のある子供

特異な才能のある子供

中学校40人学級の場合



不登校
不登校傾向

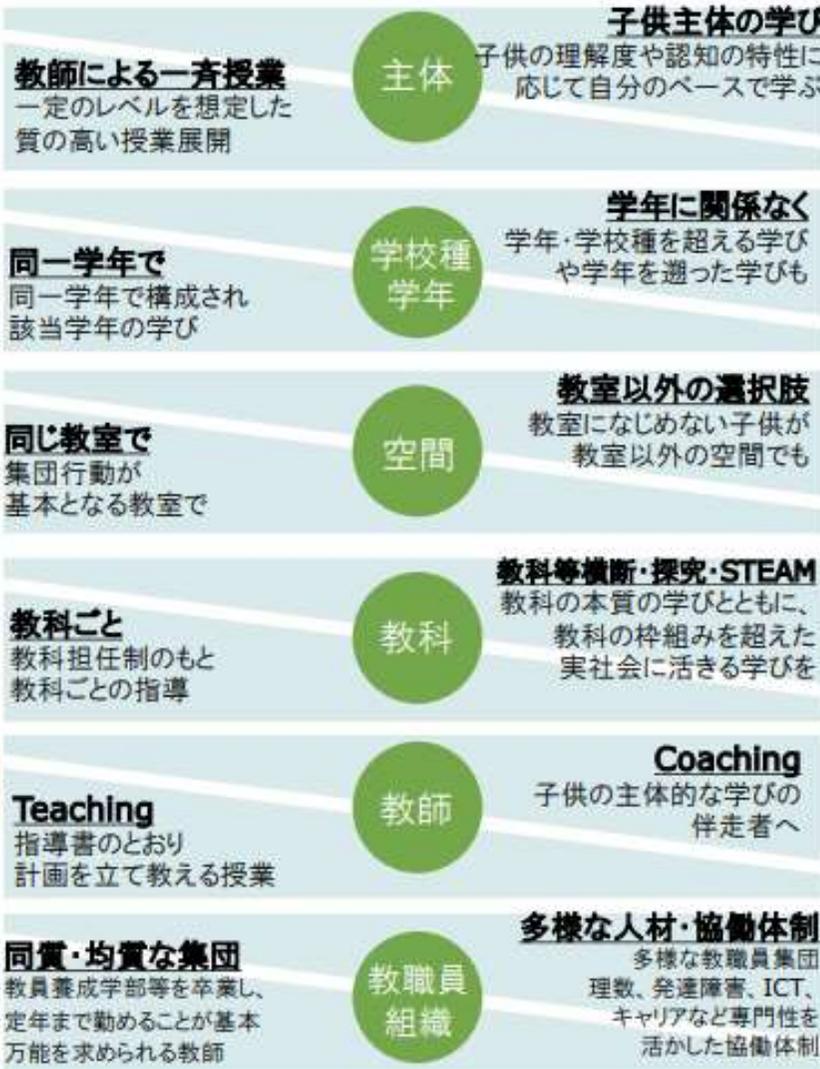
日本語を家で
あまり話さない子供

家にある本の冊数が少なく
学力の低い傾向が見られる子供
※語彙や読解力の低下は重要な教育課題

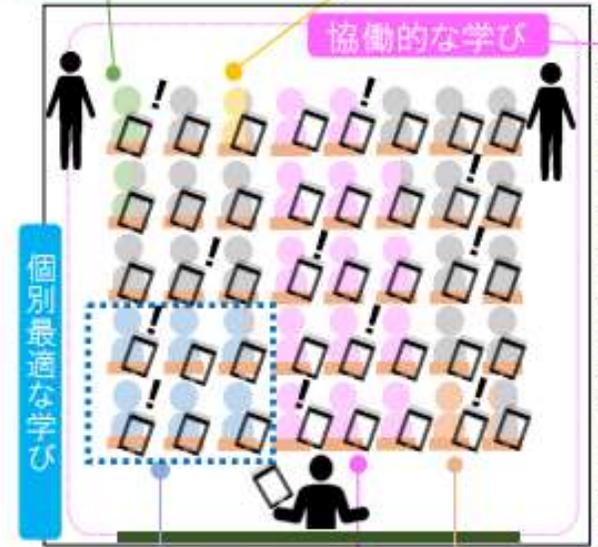
※子供の数の考え方・定義等については、スライド10の
出典と同様。

※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学
びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソ
ースでは一般的に限界があることを想定して図式化

2017年改訂により資質・能力重視の教育課程へと転換



多様な子供たちに対してICTも活用し
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



家庭や経済力、認知の特性や興味などが異なる
子供たちが協働で学ぶ機会確保が公教育の肝
※協働的な学びの重要ツールが情報端末であり、そのために情報端末が重要



家にある本の冊数が少なく
学力の低い傾向が見られる子供
タブレット等の活用により自分のペースで着実に
自分の理解に応じて学びを進めることができる

内閣府：教育・人材育成ワーキンググループ資料 <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/>

急激に変化する時代の中で、子どもたちが豊かな人生を切り拓くために

- 👉 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠。
- 👉 これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、教育の質を向上。
- 👉 ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意。
- 👉 従来の教育は、教師が生徒の状況を把握した上で指導し、知・徳・体を育むというもの。全国で質の高い教育を受けられることや、教育水準の向上などにおいて世界各国から高い評価。

令和の 日本型学校教育

従来の
日本型
教育の
良さ

ICTの
活用

GIGAスクール構想の実現とは・・・

- 学校に
高速通信ネットワークと
一人一台端末(クラウドベース)を整備して、
個別最適化された学習ができる環境をつくり
誰一人取り残されることのない学びを実現する

GIGAとは、「Global and Innovation Gateway for All(すべての児童・生徒にグローバルで革新的な扉を)」の頭文字をとったもので、Society 5.0 時代を生きる子供たちの未来を見据えて、社会環境の変化の激しい世の中でも順応していけるようにICT機器を活用した新しい教育への転換の意味合いが込められている。



クラウドの特徴を学習面で利用

- 👍 情報が全てクラウドにあるため**共有が簡単**。
- 👍 同じファイルに**複数人がアクセス可**。
- 👍 同時にアクセスできるので**共同編集が可**。
- 👍 **協働学習**も実現しやすくなる。

本市のICT環境

全22小中学校に高速LAN

一人一台コンピュータ

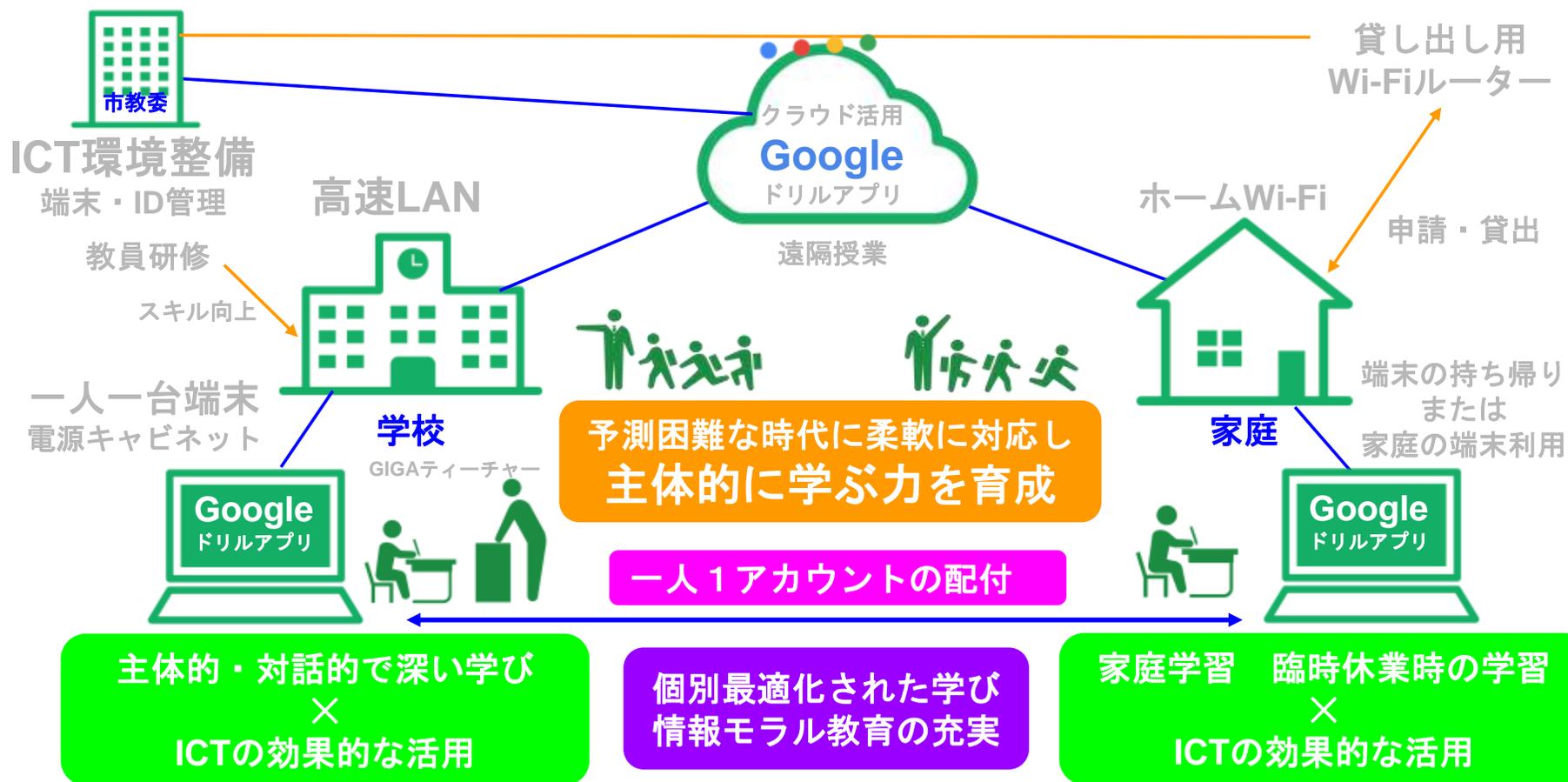
クラウドの活用

AIドリルによる個別学習

南アルプスGIGAスクール

学習指導要領
南アルプス市教育振興プラン

全ての子供が学校でも家庭でもICTを積極的に活用した学びができるよう、ICT環境の整備と情報活用能力の向上を推進する



GIGA 3年目として・・・

【成果】

活用が進み様々な場面で当たり前前にGIGA端末が利用されている。

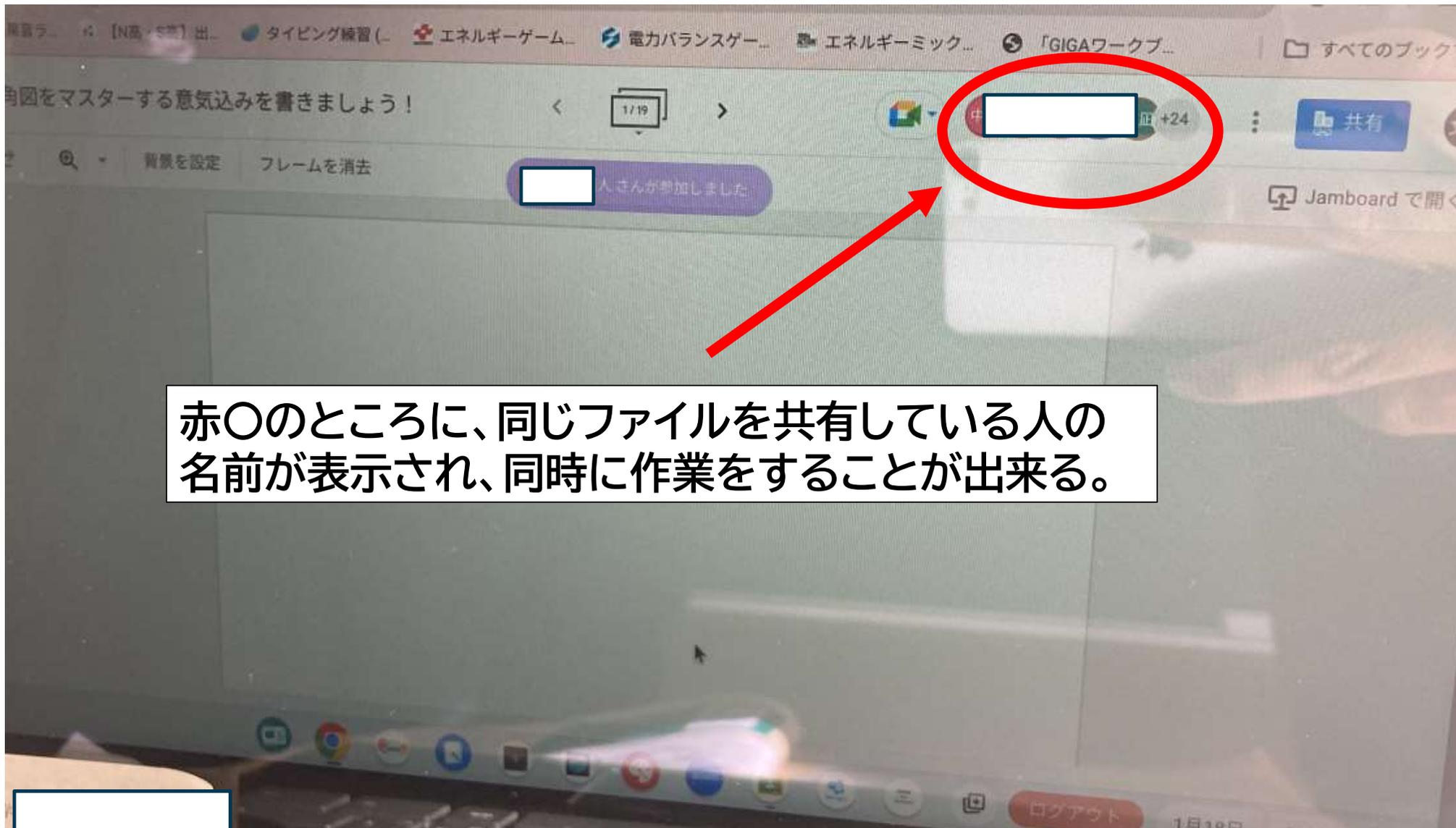
【課題】

- ①利用頻度の差が出はじめている。
- ②研修の機会の確保。
- ③今後の更なる活用に向けて。

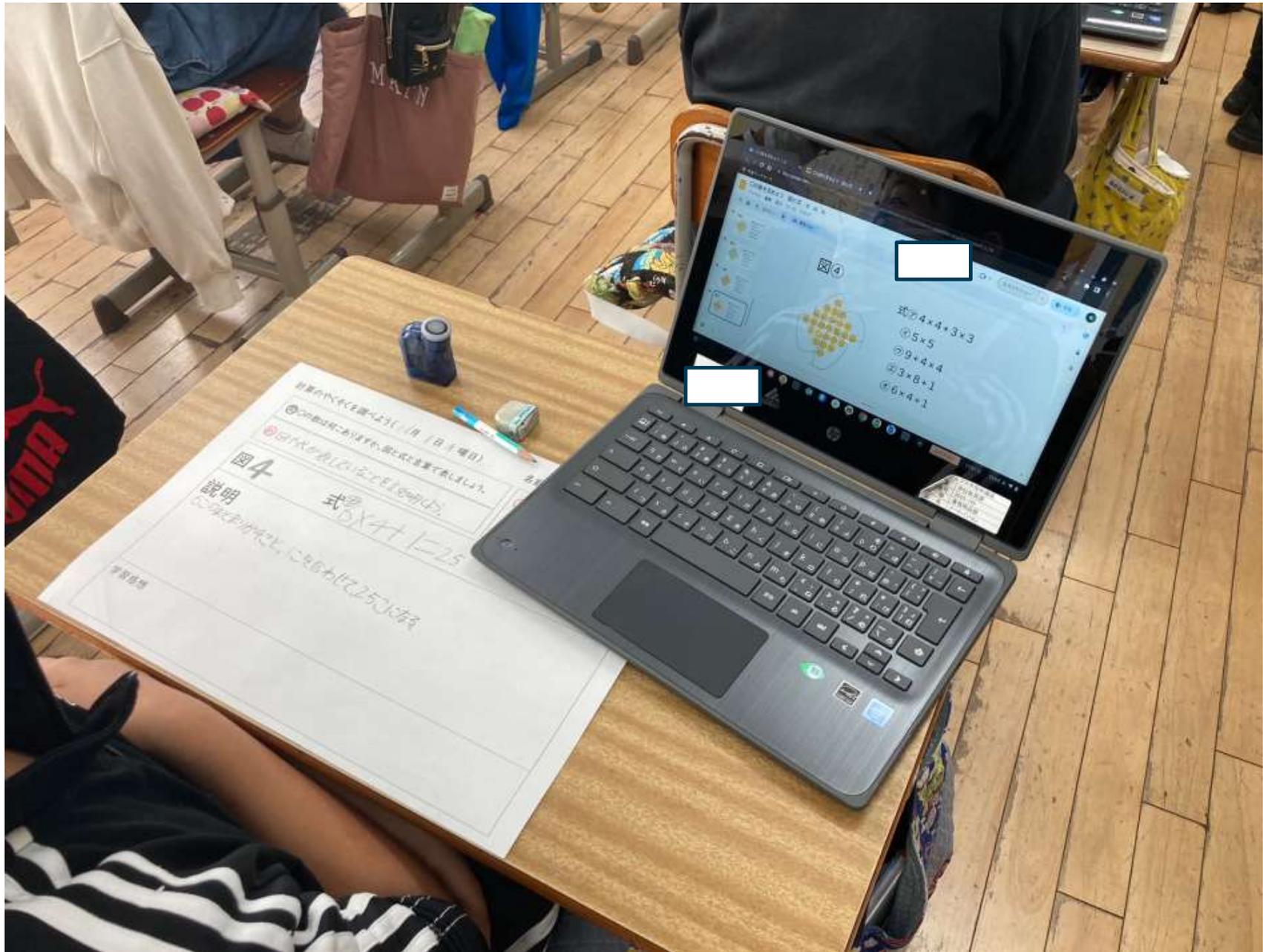
成果

活用が進み様々な場面で当たり前前にGIGA
端末が利用されている。

- ・ 授業で使う、校務で使う、その他で使う。
- ・ GIGA推進委員の活躍・実践事例集作成。
- ・ 相談窓口の紹介。



赤○のところに、同じファイルを共有している人の名前が表示され、同時に作業をすることが出来る。







ICT端末を活用した 授業等実践事例集 2022



櫻形山のアヤメ群落は、全国的にも有名であり、学術的にも高く評価されています。2002年には山梨県の自然記念物に指定されています。
市街地では、アヤメを育てる会や市民団体により、滝沢川河川沿いを中心に植栽活動が行なわれ、毎年5月にはアヤメフェアが開催されるなど市民に親しまれています。

南アルプス市教育委員会 学校教育課



課題

GIGAの取組は進んでいるが、その分、課題も見えてきた。

- ・ 利用頻度の差
- ・ 研修の機会の確保
- ・ 更なる活用に向けた準備



2023 年度 研修プログラム一覧



個人
ワーク多

難易度高

おすすめの研修は右の診断フォームまたは下の URL から確認できます
<https://forms.gle/6XXTUkXCpcVxWDijZ>



アプリや機能を使い分け、さらなる活用を目指す方

- ★ [認定教育者資格取得に向けた研修](#)
- ★ [活用力向上研修](#)
- ★ [採務活用研修](#)

ICT を日常的に活用し、活用の幅を広げたい方

- ★ [アドバンス研修](#)
- ★ [コア Plus 研修](#)

ICT に不安がある方

- ★ [スタート](#)
- ★ [超初心者向け研修](#)

個人ワーク多

グループワーク多

難易度低



デジタルドリル研修を実施



今後、想定されるICT関連の変化について

- ・令和6年

英語のデジタル教科書導入

全国学力・学習状況調査児童生徒質問用紙CBT化

全国体力・運動能力、運動習慣等調査CBT化

県学力把握調査CBT化

- ・令和7年

算数・数学のデジタル教科書導入(仮)

全国学力・学習状況調査(理科)CBT化

紙と鉛筆ではなく、
GIGA端末を使って
回答すること。

子供たちはICT機器が当たり前にある
環境の中で生活している
だからこそ、学校でもICT機器を
当たり前の道具として日常的に活用しながら
正しい使い方を身に着けさせていく
教育が必要になってくる